

令和元年度第2回山武市まち・ひと・しごと創生戦略会議 議事概要

1. 会議概要

- ・日 時 令和元年12月25日(水) 午前10時00分から午前11時30分
- ・場 所 山武市役所 第5会議室
- ・出席委員 大高委員、齊藤委員(副座長)、石井委員、木俣委員、佐藤委員、光本委員、名取委員、秋葉委員、山本委員、白井委員、寺澤委員(座長)【計11名】
- ・欠席委員 矢光委員、三橋委員、小山委員、堀井委員【計4名】
- ・事務局 石橋総務部長、中村企画政策課長、岩澤政策・シティセールス推進係長、杉浦主査、渡邊主事【計5名】

2. 議事(1) 第2期山武市まち・ひと・しごと創生総合戦略原案について

事務局説明

- ・事務局から、【資料1】、【資料2】、【資料3】及び【参考】を用いて、第2期戦略原案について説明。

委員質疑及び対応

- ・【資料2】の4ページ目、基本目標1のKPIに「ふるさと納税の寄附件数」があるが、件数増加には、掲載サイトの拡大、返品品の充実などが必要であると考えますが、市では具体的にどのような取組を行っているのか。
⇒(事務局) ふるさと納税掲載サイトの拡大については、掲載に伴い手数料がかかるため導入に至っていないが、今後検討をしていく。返品品の拡充については、日々地場産品をあたり検討している。また、トレンドである体験型の返品品も考えている旨、回答。
- ・【資料1】の32ページ目、まちづくりアンケート結果の表1-5災害に対する意識は、本年の台風被害を受ける前の結果であるか。また、本戦略における災害に対する取組について、どのようにお考えか。
⇒(事務局) アンケートは本年の4月から5月に実施したため、台風の被害を受ける前の結果である。災害対策については、本戦略と連携する総合計画で施策として位置付けており、今後の対応に向けた庁内体制を整えている旨、回答。
- ・【資料2】の4ページ目、基本目標1のKPIに「市民活動に意欲的な市民割合」があるが、対象は誰であるのか。また、6ページ目、施策1-2に「オリンピック・パラリンピックによる地域の魅力創造」とあるが、来年のイベント実施後はどのような事業展開を考えているのか。
⇒(事務局) 「市民活動に意欲的な市民割合」はまちづくりアンケート結果によるものであり、市民の中から3,000人を無作為に抽出しているため、対象者の構成は人口比率に近く、回答者は60代、70代の方が多くなっている。オリンピック・パラリンピックの取組については、イベント後は施策1の中で総体的に推進していく旨、回答。
- ・市民活動の参加者がどこに熱を込め、それが関係人口の増加に繋がるかについて明確ではない。また、オリンピック・パラリンピックのイベントに対して、今から人を呼ぶ流れを作らなければ、今後の関係人口の拡大に繋がらないと考える。

⇒（事務局）関係人口の拡大については、まだノウハウがなく、今後研究しながら進めていく。スリランカへの派遣はオリンピック・パラリンピックを契機に始まった取組であり、今後も継続して実施をしたいと考えている旨、回答。

⇒（委員）山武市民や留学した生徒等が関わるような取組が重要だと考える。

・【資料1】の4ページ目、人口の現状分析を見ると、若者の転出、人口減少が深刻な問題であると再認識する。若者を対象としたアンケートの実施はあるか。また、若者の意見は活かされているのか。

⇒（事務局）若者のみを対象としたアンケートはないが、毎年実施している転入転出者アンケートは、対象者に若者が多い。また、本戦略策定においては、若者が進学、就職で転出するも、結婚・子育てを期に山武市に戻ってくるような取組を重視している旨、回答。

⇒（委員）千葉県でも高校生の定住に関するアンケートを実施しており、近隣自治体や千葉県と連携して、地域の将来を共に考えていくのが重要だと考える。

・【資料2】の7ページ目、基本目標2の数値目標に「中学校卒業時に英語検定3級以上を取得している生徒の割合」があるが、目標達成に向けてどのような取組をしているのか。

⇒（事務局）英語検定受験に関わる費用を年1回、市で補助している。また、自由参加の英語検定対策講座を放課後等に実施している旨、回答。

・様々な団体に対して、市の取組をきめ細かく情報発信をしてほしい。情報が伝わっている地域ならば、人口減少しても市の魅力は大きく下がらないと考える。

⇒（事務局）今後意見を踏まえ、情報発信をしていきたい旨、回答。

会議結果

・本会議の意見及び後日行うパブリックコメントでの意見を踏まえ、今年度中に事務局で戦略を策定することとなった。

3. 議事（2）その他

・特になし。

以上